

平成20年度第3回伊勢地区地域審議会会議概要

- 1 開催日時 平成21年3月27日（金）午後7時～午後9時
- 2 開催場所 伊勢市役所東庁舎4-3会議室
- 3 議事内容 ① 「当該地域の現状と課題及びその具体的解決案について」の意見交換
② 他地区地域審議会との交流について
- 4 出席委員 池田千恵美委員、浦田宗昭委員、櫻井治男委員、柴原加代子委員、竜田和代委員、中村基記委員、野田久委員、春木千富委員、前田政吉委員、馬瀬清美委員、松月久和委員、山田敏穂委員、山本晃委員、山本幸正委員
- 5 欠席委員 小寺留男委員、佐久間泰子委員、杉田英男委員、松岡成直委員
- 6 出席職員 行政経営課長、行政経営課副参事、行政経営課政策係員1人
- 7 議事概要

(1)「当該地域の現状と課題及びその具体的解決案について」の意見交換 (会長)

今回の依頼に対して、伊勢市がすべきこと、伊勢市の発展のために何が必要かを明確にして、具体的にどのような形で実現させていくのかを含めた提言をしなければならぬ。前回の審議会では、委員の皆さまがどのような点で課題を感じているのか、などワークショップ形式を取り、意見を出していただいた。本日はそれを受けてさらに深めた議論を頂きたいというのが大きな課題です。あわせて他地区審議会との交流のあり方につきまして、ご意見をいただきたい。

○男女共同参画のあり方について

- ・意見の概要の中の女性が基本となっていることについては、男性スタッフが入り、雰囲気が変わった。
- ・市の組織について、課名に名前がある、なしで取組が変わるということはない。課の名称は、なくなるが、業務としてある。
- ・意識の高い方も見えるが、育った環境、世代間、家庭環境や地域環境などで意識に違いがある。堅苦しい問題ではなく、人と人が思いやりを持って、様々なことを行っていくことを訴えていきたい。一般の方へ認識が広がっていないように感じる。

○子育てと異世代間交流について

- ・高齢者の中で元気な方に子育てなどの分野で、学校などの空いている教室などを使って、学童のような仕組みができれば、子どもを預ける親も安心できるし、高齢者の方も子どもと遊んで生き甲斐となるのでは。
- ・昔は、子供達は外で遊んでいた。現在は、根本的には家庭の問題であるが、外で遊んだり、野山を駆け巡ったり子供達の遊び場があっても、それ以上に家の中で遊ぶことが増えている。

○地域コミュニティのあり方について

- ・子供達が外で遊ばないということについて、現在は競争社会であり、親が自分の子供の生涯を考え、塾だ、勉強だ、成績だとなっている。遊ぶことで人間関係が作られ、地域コミュニティの形成に大事なことと考えている。そこが活性化しなければ、コミュニティとしてまとまっていかない。
- ・小学校の下校時間に、高齢者が統一したジャンパーで見守りを行っている。地域のボランティアでやっていただいていることは良いことだと思う。現役を退いた方がなかなかすることがない。一人では無理があり、まずは仲間を作ることが大事で、そこからつながりが広がり、声を掛けやすくなり、発展していくのでは。
- ・地域コミュニティの問題点とは、近くの小さなまとまりから大きなまとまりへ行く過程がうまく行かないということである。考え方の違いや自分の主張が強い、個人主義化などそれらをまとめていくにはどうしたらよいか、という方向で検討しているのはどうか。また、組織の規模について、地区みらい会議は、学区単位の大きな組織となるが、大きな組織ではつながりが弱くならないか。

(会長まとめ)

男女共同参画のあり方について、男女共同参画都市を宣言しているが現実に進んでいるのだろうか？そのあたりが疑問であるとの意見。市として後退していないか。素朴な疑問がありテーマとしている。

子育てと異世代間交流について、子育ての問題について、単に子育てのことだけでなく、異世代が関わっていくこと、その中に遊びというキーワードがあるとの意見、もう少し市の施策へ反映してほしい。

地域コミュニティのあり方について、人間の関係性、地縁や地域のことと学区や自治会での捉え方、組織やコミュニティのあり方、2つの意見となった。身近なコミュニティが希薄化しているのではないか、そこが課題ではないか？

との意見であった。これから、まとめていく中で関連付けていけばいいのではないかと感じる。具体的にやれそうな部分から議論していけばどうか。

(2) 他地区地域審議会との交流について

(会長提案)

前回、他地区地域審議会と交流することができないかとの提案があり、各地域審議会へ提案するにあたって、どのような目的で、どのように行うか、ご意見を頂きたい。パターンとして、他地区審議会を傍聴させて頂く、または傍聴をしてもらう。テーマを設定し、委員間での意見交換の場を設ける。今回整理している意見書の間案を発表する場を設けるなど、考えられるが。

(意見)

- ・共通の問題点について、意見交換を行ってはどうか。
- ・防災や災害時の問題、ごみの分別収集方法など身近な問題や差し障りのないテーマを設定して、交流会を行ってはどうか。
- ・ワークショップの結果とすり合わせ、テーマを設定しては。

他地区地域審議会との交流について、交流を図っていくことを正副会長会議で提案
することで結論を得た。

以上